

第3回 現本庁舎等跡地活用に関する検討委員会（議事概要）

- 1 日時 令和2年1月27日（月）午後2時～午後3時40分
- 2 場所 市役所本庁舎6階 6－8会議室
- 3 出席者 (1) 委員（欠席2名）
福山委員長、河村副委員長、田中委員、佐藤委員、中山委員、木谷委員、橋本委員、金谷委員、土橋委員、民野委員、木下委員、谷上委員
(2) 事務局
高橋企画推進部長、塩谷政策企画課長、有本中心市街地整備課長、徳田都市企画課主査、中村財産経営課課長補佐、平田政策企画課課長補佐
- 4 内容 議題について、資料1～資料7に基づき事務局より説明し、委員の意見を伺った。質疑応答の要旨は以下のとおり。

(1)～(5) 資料1～資料7

- 委員 前回の委員会での議論を反映させ資料を更新している。率直な意見をお聞きしたい。
- 委員 資料1のスケジュールは標準的な工程とのことだが、工事にかかるまでの間、期間がある。駐車場や広場など暫定利用の考えがあれば聞きたい。
- 事務局 それも含め検討したい。暫定利用も含めて決まっていない。なお、駐車場は暫定的に有料駐車場として使用している。
- 事務局 補足する。駐車場を有料で市民の方に利用してもらっている。それは令和3年の解体工事が始まるまで。それ以降は決まっていないということ。
- 委員 資料2のフロー図だが、市と有識者会議と議会のところでブルーの線には一方通行の矢印があると考えてよいか。
- 事務局 市と有識者会議と議会の3つの検討する段階がある。矢印はついていないが一方通行ではない。資料を示し提言があるなどフィードバックがある。何回か議論しそれを踏まえながら進んでいきたい。
- 委員 双方向ということか。趣旨は分かった。
- 委員 資料2スケジュール感はあるか。最後の選定で評価項目の決定とある。そうなるたくさんの声を聞いても、どう優先順位をつけることになるのか。
- 事務局 まずスケジュール感。新たな有識者会議は新年度スタートさせたい。4月以降早い時期に進めていきたい。ワークショップ、ストリートミーティングで意見を聞くことになると思うが準備ができ次第行う。優先順位だが、アンケートや意見をまとめて有識者会議や議会に報告し、そこでも意見をいただきながら評価項目を決めていくが、今の段階では決まっていない。
- 委員 活用策は、最終的にいつ頃をめどに決めるのか。
- 事務局 解体工事が終了するまでに方向性を決めたい。
- 委員 方向性の取りまとめとは、何を作るか決まっているということか。前提条件を提示するが1番重要になるのは中心市街地活性化基本計画であると思う。ゾーンで言えば鳥取城跡周辺地区の文化ゾーンである。そういう意味では求められる機能を商業機能にするのか文化機能にするのか前提で決まっているということか。機能と活用

策があえて分けてあるが、市民アンケートで別々のものとして理解されるのか。機能と活用策は一体のものではないか。

■事務局 方向性については解体工事が終わるまでには決めたい。中心市街地活性化計画で鳥取城跡周辺地区は観光推進ゾーン、居住推進ゾーン、賑わい魅力創出ゾーンがあり前提条件である。まずは大きく機能を聞き、次の段階でその機能を達成するためにはどのような活用策があるのか聞く。

○委員 前提条件はあるが、意見は自由な発想で出せばいいと思っている。そのように次の有識者会議で取り組んでもらいたい。機能と活用策を分けることが市民にはわかりにくいとあったが、総合計画概要版を見てもらい、求められる機能を考える上での参考にすればよい。

○委員 前提条件がわかりづらい。ここは参考にしてほしいなど示した方がいい。都市計画マスタープラン、中心市街地活性化基本計画はイメージしやすい。総合計画は分かりにくいので整理してほしい。

○委員 意見を聞くのはいいが、前提条件を説明してからワークショップやストリートを行うのか。

■事務局 お見込みのとおり。対面で意見交換をする場合は前提条件の説明はする。アンケートを実施するときは前提条件を示す。

○委員 ワークショップは何人くらいですか。

■事務局 規模は検討段階であるが、40～50人レベルの中規模を想定している。

○委員 ワークショップの内容は誰が決めるのか。新しい有識者会議か。

■事務局 検討中であるが、有識者会議とも相談しながら市で決めていく。

○委員 資料24選定と5活用策の具体化、評価項目比較・決定がわかりづらい。ゴール地点を示した方がワークショップなど意見を出しやすくする。ゴール地点の明確化をお願いしたい。

○委員 この委員会は今日で最後か。来年度も続くのか。メンバーも代わるのか。

■事務局 今年度で終了。メンバーは代わる。

○委員 資料2ワークショップ、ストリートミーティング、各種団体との意見交換の後に市民アンケートをする手順だと終わりに行う市民アンケートが勝ってしまう。これまで積み上げてきたものをひっくり返すのはどうか。これで集まってくる意見は抽象度が高いので方向付け・ハンドリングもしやすいが、このプロセスを経て出てきたか疑わしい。機能・活用策に関して4つくらいの選択肢から選ぶ、選択肢になればその他の意見を出してもらう方が具体的で分かりやすく意見もまとまりやすい。その選択肢を誰が作るのかがポイント。鳥取市・議会が作ればよいがそれは役割が違う。選択肢を作るプロではない。文化的なプロ、中小企業診断士、MBA取得者、銀行員等のプロの方に選択肢を4つくらい作ってもらう。専門的な人が選んだら市民は納得する。説得力を担保する意味でも専門家に選択肢を作ってもらい市民に選んでもらう方がいいと思う。

■事務局 今まで委員の意見を伺ってこのフロー図を作った。例えば資料2の求められる機能の抽出があるが、(1)でいただいた意見を(2)で取りまとめ、4つなら4つの意見を(3)①、②で意見を抽出するのはどうか。(1)③各種団体との意見交換があ

る意味で委員の言った専門的な意見をいただけるところと思っている。(1)①、②、③は並行的・同時進行のようになっているが、今の意見を取り入れれば、初めに③を行い、その後、①・②を行う方法もある。その辺りは、意見をいただければと思う。これでやりたいのではなく、みなさんの意見を集約する。今日の意見を反映しまとめる。今回意見がまとまらなければ、次の検討委員会を開く。

○委員 **資料2**に有識者会議、議会と書いてあり4つの役割が記載してある。意見・提言をいただき、なおかつチェックも入っている。有識者や議会には機能や活用策に対する専門的な意見・提言を言っていただく方がいい認識。チェック機能も入っている。有識者会議の定義をどうするのか決め、鳥取市の枠の中に入れてもいい。

○委員 意見を求められたときに、自分は「これがほしい」と言う市民がいる。その施設がこれから20～30年続くため、前提条件として専門家が4つ程度の選択肢を用意した方が入口としてはわかりやすい。**資料2**の2(1)③から始まって、①・②を実施する手順の方が、議論は積み上がっていく気がする。

○委員 **資料2**(1)①・②・③はパラレルのイメージで書いてあると思うが、今の意見は③がリーダーシップをとるイメージ。書き方は確認する。

○委員 有識者会議は鳥取市の中にある機関で、そこでまとめたものを議会に報告したり意見をもらう形。**資料2**に記載してあるように有識者会議と議会がつながることは、普通はあり得ない。有識者会議が独立した第三者機関ならあり得る。市でまとめた意見を議会に持っていく流れになると思う。

○委員 そのことが言いたかった。フロー図は時系列で書いてあるが、市と有識者会議に双方向の矢印があって、その下に市から議会に矢印があるべき。機能は商業機能、文化機能、居住機能で、活用案は、スーパーマーケット、美術館、マンション等、具体的なイメージか。どんなレベルの機能・活用案を考えているのか。前提条件も第10次総合計画が第11次総合計画になるなど動いていく。新しいものに更新しながら進めていくと思う。

■事務局 そのとおりのイメージを考えている。

○委員 段階を踏むことは大切なこと。(4)整理で絞られると思う。市民から出た意見を「それは入れない。」とするのが整理である。そういうプロセスがどこかで必要になる。

○委員 多様な意見を(4)で狭めていくのもあり。しかし(1)で選択肢を提示し狭めておいた方がいいと思う。

○委員 有識者会議を立ち上げて、令和4年に活用策の方向を出すのか。市民会館の方針も入ってくるのか。

■事務局 市民会館のあり方については、今、並行して検討している。大きな話であるのでいつまでにとすることは示せないが、隣接しているので検討のプロセスの中には入ってきて、活用策を検討する頃までには何らかの形で入れないといけないと思っている。

○委員 ワークショップではいろいろな意見が出ると思う。文化施設、商業施設、福祉施設等、大きなものは決まっている。それを4つ選んだところで本当にまとめられるのか。有識者の思いで勝手に決められてしまうのではないか。

■事務局 いろんな意見が出ると思う。スタートラインとしては幅広く聴きたい。

- 委員 機能の抽出という言葉があるけど、誰がまとめるのか。最終的に誰が判断するのか。結局、市が取りまとめるのか。
- 委員 機能と活用策を分けることはまどろっこしいと思うが、あえてこのプロセスを踏んでいきたいという意味だと思う。次の新たな有識者会議で市とは一步離れたところで決めていただきたいということではないか。
- 委員 積み上げてきたものを台無しにするのはどうかと言ってきたが、この委員会で決まったものがこのフロー図。例え結果は見えていても市民に問わないといけない。このプロセスを飛ばすと、「なぜプロセスを経ないのか。」と思うのか。わかっているながらも市民としてどう思うのか。やはり問うてほしいと思うのかだと思う。資料2の2、3はいるのかと正直思う。市民に聞けば中心市街地活性化協議会での意見と同様になると思う。もう分かっているからこのプロセスを飛ばしてもいいのか、分かっているけどやってほしいと思うのかだと思う。
- 委員 この委員会は、住民合意形成をどう図っていくかを検討する委員会である。行政主導ではなく、市民の声を丁寧に聞くというのがよいと思う。フロー図では、機能と活用策は分けて書いてあるが、柔軟に対応されればと思う。
- 委員 このプロセス無しに決めたらどうなるのかなと思う。そのような事例はあるか。
- 事務局 計画や市が何かやろうとするときは、市が案を出してもパブリックコメントやこのような委員会で意見を求めるのが一般的。事業提案しても意見を伺うのが一般的である。
- 委員 3年ほど前、鳥取市議会と市民でワークショップを行った。その中の1つのテーマが庁舎跡地の機能についてであった。市民は機能と活用策の区別がつかない。出た意見は、大学がいい、スーパーがいいなどで、上手に整理して誘導しないとイケないと思った。
- 委員 プロセスを決定することがこの委員会の目的。図にすると思いと違う部分が出てくる。市民に理解してもらうために、慎重に最大限実施するとこのフロー図になる。フロー図にすると書いてあるから全部やるのかということになる。うまくいけばやらないこともあると思う。図だけではなくそこを分かるように書き込む。
- 委員 ワークショップ、ストリートは2機能のときと3活用策のときで同じメンバーでやるのか。
- 事務局 今は違うメンバーを想定している。
- 委員 色々な意見が出てくる。機能の段階でコンビニ、スーパーがほしいという人も出てくる。それは商業機能として抽出する。ただ、コンビニがほしいという意見は残しておく。常に色々な意見が出るような雰囲気醸成する。色々な意見が出やすい環境づくりをする。
- 委員 資料2の直し方をまとめたい。新たな有識者会議は鳥取市に包括。議会とは離す。議会と鳥取市が行き来する。
- 委員 時系列的にいうと有識者会議が初めにあって、次の段階で市から議会、議会から市に戻る。有識者会議とも議会とも双方向のやり取りがある。
- 委員 専門的な意見はどうするか。
- 事務局 新たな有識者会議に専門家が集まっているので、そこである程度の意見を集約し、

その後、ワークショップやストリートミーティングに諮っていくということがかか。

- 委員 資料2の「【新たな有識者会議、議会】」を分ける。機能と活用策を分けるなどまどろっこしいところもあるが、次の有識者会議に提示し「丁寧にやってください。」というメッセージを残す。
- 委員 市民アンケートを実施するのであれば、市報に載せるだけではなく、盛り上げて感心をもってもらい、たくさん意見が出るようにしてほしい。
- 委員 前提条件という言い方はどうか。
- 委員 機能についてはわかった。活用策はどういうイメージでまとめるのか。
- 事務局 商業機能であればスーパー、コンビニ等、具体的なもの。
- 委員 報告書について意見はあるか。
- 委員 取捨選択の過程について見える化しないと不透明で不満が出る。取捨選択のプロセスを見える化して市民に納得していただけるようにしてほしい。
- 委員 プロセスで言えば、フィードバックのところだと思う。
- 委員 前提条件について。前提条件だとその説明に縛られるイメージ。「活用策検討にあたっての基本情報」はどうか。
- 委員 ワorkshopは分かりやすく周知し、何回か開いてもらいたい。アンケートは20年30年の活用策を10分程度で済ますことになるのが弱いところ。次の有識者会議で議論してほしい。今、有料駐車場で使っている跡地の利用方法も考えてほしい。土日だけでも無料開放という方法もあったのでは。実験的に中心市街地活性化協議会に任せて半年に1回程度イベントをやる方法もある。
- 委員 今日もらった意見で修正する。この委員会の報告としては、「丁寧に説明してください。」ということと「チェック機能を持った組織を作ってはどうか。」の2点に集約される。もう1回検討委員会を開く必要があるか。報告書は修正して委員には見てもらう。この委員会は今回で終わりにするのか。次の有識者会議は設置される方向か。
- 事務局 4月か5月、早い時期に設置したい。
- 委員 新たな有識者会議に報告書を持ってよろしくということによいか。
- 委員 4選定に、有識者会議と議会が入っていないがどうか。
- 事務局 4選定にも同じく有識者会議と議会を入れる。
- 委員 今回を最後に委員会は終わりたい。
- 事務局 今回で本検討委員会は最後。議論された手法や手順を参考に、市民みなさまの意見を聞きながら次の検討進めたい。

4 その他

なし